

シーカヤックで周遊 夏の山田湾の景色を満喫

7月23日、浦の浜海水浴場でシーカヤック体験会が開催されました。このイベントは、今年から利用開始となった浦の浜シーカヤック艇庫で行われ、海の日に併せて開催されたもので、午前の部には、家族連れら15人が参加。体験会では、艇庫の紹介や乗り方を教わった後、山田湾を周遊しシーカヤックを楽しみました。インストラクターを務めた川村将崇さんは「体験会をとおしてシーカヤックを目的に山田町に来る人を増やしていきたい」と意欲を燃やしています。



不来方高校音楽部コンサート 希望に満ちた歌声に感動

8月2日、町中央公民館大ホールで不来方高校(熊谷浩校長、生徒822人)音楽部によるふれあいコンサートが開催。今年で8回目となる同校の活動を楽しみに、会場には約200人が訪れました。コンサートは、山田町民歌で幕を開け、合唱版紅白歌合戦では、紅組も白組も熱の入った振り付けでムーディーな昭和の歌謡曲などを披露しました。後半は、明日への希望を歌詞にした「明日があるさ」や「Jupiter」などを歌い、生徒たちの復興への願いが来場者の心に響き渡りました。

2人が100歳を迎える

川向町の田代ハナさん、大沢の大川ナツさん

7月20日、川向町の田代ハナさんが100歳を迎えられ、23日には利用しているデイサービス施設で100歳を祝う会が行われました。田代さんは、田の浜に8人兄弟の三女として生まれ、18歳で大阪のミシン工場に5年間従事。田の浜に嫁ぎ、3人の娘と6人の孫、6人のひ孫に恵まれました。震災で被災し現在は、娘さんと川向町で暮らす田代さん。若い頃から手先が器用で、今でもコースターなどを作っているそうです。ご家族は「好き嫌いがなく、必ず1日3食を食べる」と、長寿の秘訣を話しました。



8月10日、大沢の大川ナツさんが100歳を迎えられました。4日には、利用しているデイサービス施設でお祝いの会が行われ、利用者や職員などが祝福。大川さんは、織笠で5男2女の長女として生まれました。子どものころは「食べ物がないで大変だった」と過去を振り返ります。大沢に嫁いだ後は、旦那さんと漁業で生計を立てていました。大川さんの長寿の秘訣は、散歩をすること。現在でも15分程度歩くことを日課としています。多くの人に祝福され、大川さんは笑顔で百寿を喜びました。



町のわだい

今月の題字 中嶋 かれんさん（山田小6年）



10年ぶりのオランダ島 家族連れで笑顔あふれる

8月1日、オランダ島海水浴場の海開きが行われました。オランダ島は、東日本大震災で施設が被災し、海水浴は中止となっていました。町民や有志団体が倒木の撤去や海岸の清掃などの支援もあり、遊歩道や避難路、栈橋の整備が7月に完了し10年ぶりに再開。今年は、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、町民に限定して行われました。当日は、家族連れなど約40人が巡航船「海童丸」から次々と上陸。観光客らは、浮き輪を片手に海で泳いだり、遊歩道で一周したりと10年ぶりのオランダ島に笑顔があふれていました。

思い思いの場所で見上げる 夜空を彩る大輪の花

8月14日、山田漁港で山田町商工会青年部(松本龍太郎^{りゅうたろう}長)主催の「第14回やまだの花火大会」が開催されました。今年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ステージイベントなどを行わないなど、「密」を避ける形での開催。打ち上げ1時間前の防災行政無線では、「思い思いの場所でご覧ください」と呼びかけました。当日の天候は、あいにくの小雨でしたが、花火の打ち上げが始まった午後7時には晴れ空に。この日打ち上げられた花火2500発は、夜空に大輪の花を鮮やかに咲かせ、皆さんのもとに届けられました。

